

(様式第1号)

令和 元年 6月 30日

認定介護福祉士認証・認定機構

理事長 大島 伸一 様

領域名： 福祉用具と住環境に関する領域

科目名： 福祉用具と住環境

単位数： 2単位

認証申請する研修の名称： 福祉用具と住環境（認定介護福祉士養成研修）

団体名： 一般社団法人愛知県介護福祉士会

団体事務所の所在地： 〒460-0001

愛知県名古屋市中区三の丸1丁目7-2 桜華会館内

電話： 052-202-8260

FAX： 052-202-8280

E-mail： info@aichi-kaigo.jp

下記書類を添えて上記科目に対する研修の認証を申請します。

団体代表者： 会長 下山久之 印

申請責任者： 下山久之

記

○認定介護福祉士研修認証申請書（別紙1～3）

<機構使用欄>

受付	
確認	
委員付託	
追加連絡	
評価報告	
理事会承認	
認証番号	

(別紙1) 認定介護福祉士研修認証

※申請受付番号 \_\_\_\_\_

(※は記入しないでください)

### 認定介護福祉士研修認証申請書

申請年月日	2018年10月31日
申請団体名	一般社団法人愛知県介護福祉士会
申請団体代表者氏名	会長 下山久之
申請責任者職名	会長 下山久之
申請責任者氏名	下山久之
団体住所	〒460-0001 愛知県名古屋市中区三の丸1丁目7-2 桜華会館内
同 Tel・Fax	Tel : (052 )-(202 )-(8260 )
メールアドレス	Fax : (052 )-(202 )-(8280 ) E-mail <u>info@aichi-kaigo.jp</u>
申請対象の領域	領域名 : 福祉用具と住環境に関する領域
科目名 (単位数)	科目名 : 福祉用具と住環境 ( 2 単位)
申請する研修名	福祉用具と住環境 (認定介護福祉士養成研修)
研修認証実績	年 認証番号 ( )
	年 認証番号 ( )
	年 認証番号 ( )
その他特記事項	

(別紙2) 認定介護福祉士研修認証

認証申請科目に対する研修の内容

申請対象の領域	福祉用具と住環境に関する領域	
科目名	福祉用具と住環境	
(1) 提供する研修について		
研修名	福祉用具と住環境（認定介護福祉士養成研修）	
研修目標	<p>○福祉用具に関する知識を習得して支援に活用することができる力を身につける。</p> <p>○住環境の知識を習得して家族や利用者に改修に関する提案ができる力を身につける。</p>	
到達目標	<p>① 福祉用具に関する基礎的な知識を習得し、支援に活用できる。</p> <p>② 介護場面に応じて、福祉用具等を選択し、それらを活用した支援技術を習得し、実践できる。</p> <p>③ 住環境に関する基本的な知識を習得し、支援に活用できる。</p> <p>④ 在宅や施設を問わず、利用者の生活の場となる住環境を評価し、介護場面に応じて改善を提案することができる。</p>	
研修内容（研修プログラム）	含むべき内容	研修プログラム
	<p>1. 福祉用具に関する基礎的な知識（8時間）</p>	<p>（1日目）</p> <p>8：45～9：00 オリエンテーション</p> <p>1. 福祉用具に関する基礎的な知識（8時間。ただし1時間を45分として換算する）</p> <p>テキスト『福祉用具専門相談員研修テキスト』『福祉用具サービス計画作成ガイドブック』について講義形式での解説後、演習を通して以下の内容について理解を深める。</p> <p>○具体的な福祉用具</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・移動関連用具（車いす、歩行器、杖）</li> <li>・ベッド</li> <li>・移乗関連用具（移動用リフト、スライディングボード等）</li> <li>・排泄関連用具</li> <li>・入浴関連用具</li> <li>・住宅設備機器（段差解消器、階段昇降機等）</li> <li>・義肢・装具</li> <li>・自助具</li> <li>・コミュニケーション関連用具</li> <li>・福祉車両</li> <li>・住環境の整備</li> <li>・姿勢</li> <li>・ポジショニング</li> <li>・介護ロボット 等</li> </ul>

○具体的な福祉用具の使用方法

9：00～10：30

○具体的な福祉用具

- ・移動関連用具（車いす、歩行器、杖）

●導入講義 20分

●演習 50分（移動支援のための福祉用具の使用法に関する実技を含む）

●フィードバック講義 20分

10：30～10：45 休憩

10：45～12：15

○具体的な福祉用具

- ・ベッド
- ・移乗関連用具（移動用リフト、スライディングボード等）
- ・排泄関連用具

●導入講義 20分

●演習（ベッド、移乗関連用具、排泄関連用具の使用法に関する実技を含む）

●フィードバック講義 20分

12：15～13：15 昼食休憩

13：15～14：45

○具体的な福祉用具

- ・入浴関連用具
- ・住宅設備機器（段差解消器、階段昇降機等）

- ・義肢・装具

- ・自助具

- ・コミュニケーション関連用具

- ・福祉車両

●導入講義 20分

●演習（入浴関連用具、住宅設備機器、義肢・装具、自助具、コミュニケーション関連用具、福祉車両等の使用法に関する実技を含む）

●フィードバック講義 20分

14：45～15：00 休憩

	<p>2. 介護場面に応じた適切な福祉用具の選定や住環境の整備 (4時間)</p>	<p>15 : 00～16 : 30  ○具体的な福祉用具  ・住環境の整備  ・姿勢  ・ポジショニング  ・介護ロボット 等  ●導入講義 20分  ●演習 50分 (住環境の整備、姿勢、介護ロボットに関する使用法等の実技を含む)  ●フィードバック講義 20分</p> <p>16 : 30～16 : 45  一日の振り返り  事務連絡</p> <p>(2日目)</p> <p>8 : 45～9 : 00 オリエンテーション  2 介護場面に応じた適切な福祉用具の選定や住環境の整備 (4時間。ただし1時間を45分として換算する)  テキスト『福祉用具専門相談員研修テキスト』『福祉用具サービス計画作成ガイドブック』について講義形式での解説後、演習を通して以下の内容について理解を深める。  ○施設、在宅生活に応じた福祉用具の選定</p> <p>9 : 00～10 : 30  〈一事例目〉  ●導入講義 20分  ●演習 50分  ●フィードバック講義 20分</p> <p>10 : 30～10 : 45 休憩</p> <p>10 : 45～12 : 15  〈二事例目〉  ●導入講義 20分  ●演習 50分  ●フィードバック講義 20分</p> <p>12 : 15～13 : 15 昼食休憩</p>
--	---	---

3. 利用者の障害の程度による機器の選定方法と、福祉用具を活用する際のリスクの理解  
(6時間)

3 利用者の障害の程度による機器の選定方法と、福祉用具を活用する際のリスクの理解 (6時間。ただし1時間を45分として換算する)

テキスト『福祉用具専門相談員研修テキスト』『福祉用具サービス計画作成ガイドブック』『福祉用具ヒヤリハットあるある』について講義形式での解説後、演習を通して以下の内容について理解を深める。

○障害特性に応じた福祉用具ならびに住環境の整備

- ・視覚障害
- ・聴覚障害
- ・運動機能障害
- ・言語障害 等

○障害の重症度に合わせた福祉用具の適切な選定

○介護保険制度における福祉用具

○障害者自立支援制度における補装具

13:15~14:45

○障害特性に応じた福祉用具ならびに住環境の整備

- ・視覚障害
- ・聴覚障害
- ・運動機能障害
- ・言語障害 等

●導入講義 20分

●演習 50分

●フィードバック講義 20分

14:45~15:00

15:00~16:30

○障害の重症度に合わせた福祉用具の適切な選定

●導入講義 20分

●演習 50分

●フィードバック講義 20分

16:30~16:45

一日の振り返り

事務連絡

	<p>(3日目)</p> <p>8:45~9:00 オリエンテーション</p> <p>9:00~10:30</p> <p>○介護保険制度における福祉用具</p> <p>○障害者自立支援制度における補装具</p> <p>●導入講義 20分</p> <p>●演習 50分</p> <p>●フィードバック講義 20分</p> <p>10:30~10:45 休憩</p> <p>4. 利用者の住環境の評価 (6時間)</p> <p>4 利用者の住環境の評価 (6時間。ただし1時間を45分として換算する)</p> <p>テキスト『福祉用具専門相談員研修テキスト』『福祉用具サービス計画作成ガイドブック』『福祉住環境整備の作業療法』について講義形式での解説後、演習を通して以下の内容について理解を深める。</p> <p>○住環境をアセスメントする視点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 段差</li> <li>・ 風呂場</li> <li>・ 廊下幅</li> <li>・ 寝室</li> <li>・ 明るさ 等</li> </ul> <p>10:45~12:15</p> <p>〈一事例目〉</p> <p>●導入講義 20分</p> <p>●演習 50分</p> <p>●フィードバック講義 20分</p> <p>12:15~13:15 昼食休憩</p> <p>13:15~14:45</p> <p>〈二事例目〉</p> <p>●導入講義 20分</p> <p>●演習 50分</p> <p>●フィードバック講義 20分</p> <p>14:45~15:00</p> <p>15:00~16:30</p> <p>〈三事例目〉</p> <p>●導入講義 20分</p> <p>●演習 50分</p> <p>●フィードバック講義 20分</p>
--	--

<p>5. 利用者が自立生活を送るための障害の状況に応じた住環境の課題と対策 (6時間)</p>	<p>16:30～16:45 一日の振り返り 事務連絡</p> <p>(4日目)</p> <p>8:45～9:00 オリエンテーション</p> <p>5 利用者が自立生活を送るための障害の状況に応じた住環境の課題と対策 (6時間。ただし1時間を45分として換算する)</p> <p>テキスト『福祉用具専門相談員研修テキスト』『福祉用具サービス計画作成ガイドブック』『住環境のバリアフリー・ユニバーサルデザイン』について講義形式での解説後、演習を通して以下の内容について理解を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○バリアフリーの考え方</li> <li>○ユニバーサルデザインの考え方</li> <li>○介護保険制度における住宅改修等</li> </ul> <p>9:00～10:30 〈一事例目〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●導入講義 20分</li> <li>●演習 50分</li> <li>●フィードバック講義 20分</li> </ul> <p>10:30～10:45 休憩</p> <p>10:45～12:15 〈二事例目〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●導入講義 20分</li> <li>●演習 50分</li> <li>●フィードバック講義 20分</li> </ul> <p>12:15～13:15 昼食休憩</p> <p>13:15～14:45 〈三事例目〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●導入講義 20分</li> <li>●演習 50分</li> <li>●フィードバック講義 20分</li> </ul> <p>14:45～15:00 休憩</p>
--	--

	<p>15：00～15：15 研修の振り返り</p> <p>15：15～16：15 ●筆記試験（60分）</p> <p>16：15～16：30 ●結果発表の方法と、今後の研修の流れ</p>
研修方法	<p>■集合学習（集合研修）30時間 □課題学習（通信研修）</p> <p>すべて集合学習として実施する。</p>
研修時間	30時間
修了要件	<p>集合学習のすべての時間に出席し、終了検定課題（筆記試験）で合格基準を満たしていることを確認する。ただし、やむを得ない理由で遅刻・早退がある場合、補講又はレポート提出をもってその不足分を補うこととする。やむを得ない事情による遅刻・早退は30分以内とし、30分を超える遅刻・早退は認めない。</p> <p>① 福祉用具に関する基礎的な知識を習得し、支援に活用できる。 ② 介護場面に応じて、福祉用具等を選択し、それらを活用した支援技術を習得し、実践できる。 ③ 住環境に関する基本的な知識を習得し、支援に活用できる。 ④ 在宅や施設を問わず、利用者の生活の場となる住環境を評価し、介護場面に応じて改善を提案することができる。</p>
講師要件（講師の選定基準）	<p>・当該科目における十分な知識・専門性を有し、講師等の教育経験があること</p> <p>・日常業務で介護職員と共に働いた経験があり、福祉用具・福祉住環境との知見のある方（リハビリテーション専門職：理学療法士・作業療法士・言語聴覚士等、リハビリテーション工学技士、義歯装具士、福祉住環境コーディネーター1級以上等が望ましい。</p>
(2)受講者について	
受講対象（受講要件）	特になし
修了評価（習得度、研修成果）	<p>筆記試験（試験時間は60分。記述式試験。50問程度、100点満点中60点以上で合格）に合格すること</p> <p>〈評価基準〉</p> <p>① 移動、移乗、起居に関する福祉用具とその使用方法について理解している。 ② 食事、排泄、入浴に関する福祉用具とその使用方法について理解している。 ③ コミュニケーション関連用具、姿勢保持具、義肢装具、介護ロボットの種類とそれらを必要とする利用者像を理解している。 ④ 要介護高齢者が生活する居住環境の課題や問題点を十分に理解</p>

	<p>し、アセスメントに応用できる。</p> <p>⑤ 住宅改造の基本的な知識について十分に理解している。</p> <p>⑥ 疾病や障害への理解を前提として、疾病や障害の特性を踏まえた住環境整備を理解し、介護現場に応用できる。</p>
(3) 研修の環境条件	
定員（講師の配置基準）	<p>30名</p> <p>30名に対し講師1名、ファシリテーター1名を配置する。</p>
開催場所（都道府県）	愛知県名古屋市中区三の丸1丁目7-2 桜華会館

## (別紙3) 認定介護福祉士研修認証

## 認証申請する研修の実施体制等 (届出事項)

(1) 研修の実施予定	
実施日	① 2020年5月
	②
	③
開催場所 (会場)	① 桜華会館 (愛知県名古屋市中区三の丸1丁目7-2)
	②
	③
(2) 講師	来島修志 (日本福祉大学健康科学部助教) 作業療法士資格有。介護現場で介護福祉士と就労した経験があり、現在、大学で介護福祉士ならびに作業療法士に対する教育に従事していることから講師要件に該当すると判断する。
担当、氏名及び略歴	日本福祉大学大学大学院医療福祉マネジメント研究科修士課程修了 修士 (医療福祉マネジメント) 日本福祉大学健康科学部リハビリテーション学科助教 1985年4月～1988年1月医療法人朋和会東春病院 1988年2月～1990年3月国立療養所東尾張病院 1990年4月～1993年3月一宮市立市民病院今伊勢分院 1993年4月～1996年3月医療法人博寿会本部記念病院 上記の病院にて介護福祉士とともに就労し多職種協働に携わってきた経歴を持つ。 日本福祉大学健康科学部において「作業療法評価学」「老年期作業療法学」「集団活動指導法」「日常生活活動学実習」「生理学I実習」「認知症リハビリテーション」等の科目を担当し、健康科学部リハビリテーション学科介護学専攻 (介護福祉士資格取得を目指す学生が学ぶ専攻) の学生にも指導をしている。日本認知症ケア学会評議員であり、東海地域大会における事例検討会講師を務め、認知症の人が地域在住生活を送るための住環境や福祉用具の活用等についても指導を行っている。
(3) 実施体制	
研修の企画運営の組織 (担当部局・人員)	愛知県介護福祉士会事務局 事務局長1名 事務員1名 会長・副会長1名 認定介護福祉士担当理事2名 協力員 (愛知県介護福祉士会会員) 3名
研修の企画運営に関する諸規程	愛知県介護福祉士会研修運営に関する規程
研修管理責任者職名	愛知県介護福祉士会会長
研修管理責任者氏名	下山久之
機構問合先部署	一般社団法人愛知県介護福祉士会事務局
機構問合先担当者氏名	会長 下山久之 事務局長 池田久恵
機構問合先電話番号/FAX	電話 052-202-8260 FAX052-202-8280

機構問合せ先 e-mailアドレス	info@aichi-kaigo.jp
受講問合せ先部署	一般社団法人愛知県介護福祉士会事務局
受講問合せ先担当者氏名	会長 下山久之 事務局長 池田久恵
受講問合せ先電話番号/FAX	電話 052-202-8260 FAX052-202-8280
受講問合せ先 e-mailアドレス	info@aichi-kaigo.jp
(4) 研修履歴の管理体制	
受講者への付与単位部門	愛知県介護福祉士会 研修事業部
受講履歴の管理方法	愛知県介護福祉士会 研修事業部・事務局により受講路歴をパソコンにて管理する。
受講履歴の証明	科目修了ごとに修了証を発行する。
管理責任者氏名	会長 下山久之 事務局長 池田久恵
管理担当者氏名	事務局長 池田久恵